

製品名: Bcl-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07501**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	BCL2
別名	BCL2; Apoptosis regulator Bcl-2
遺伝子 ID	596.0
SwissProt ID	P10415
免疫原	抗血清はヒト BCL-2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 46-95

背景

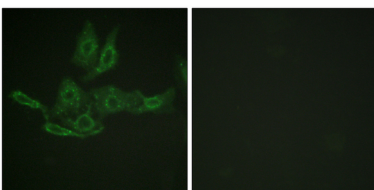
BCL2、アポトーシス制御因子 (BCL2) ホモサピエンス この遺伝子は、リンパ球などの一部の細胞のアポトーシスを阻害するミトコンドリア外膜タンパク質をコードしています。BCL2 の免疫グロブリン重鎖遺伝子座への転座など、BCL2 の恒常的発現は、濾胞性リ

ンパ腫の原因と考えられています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2016年2月]、疾患: BCL2に関連する染色体異常は、濾胞性リンパ腫 (FL) [MIM:151430] (別名II型慢性リンパ性白血病) の原因となる可能性があります。免疫グロブリン遺伝子領域との転座 t(14;18)(q32;q21)。染色体転座を伴う非ホジキンリンパ腫で見られる BCL2 変異は、ヌクレオチドの遷移を引き起こす Ig 体細胞超変異機構に起因する可能性があります。ドメイン: BH4 モチーフは、抗アポトーシス活性および RAF-1 との相互作用に必要です。機能: 因子依存性リンパ造血細胞や神経細胞など、さまざまな細胞系でアポトーシスを抑制します。ミトコンドリア膜透過性を制御することで細胞死を調節します。カスパーゼとのフィードバック ループ システムで機能すると思われます。ミトコンドリアからのシトクロム c の放出を防ぐことによって、および/またはアポトーシス活性化因子 (APAF-1) に結合することによって、カスパーゼの活性を阻害します。オンライン情報: Bcl-2 エントリ, PTM: Ser-70 のリン酸化/脱リン酸化が抗アポトーシス活性を調節します。PKC による成長因子刺激による Ser-70 のリン酸化は、抗アポトーシス活性に必要であり、細胞周期の G2/M 期に起こる。成長因子が存在しない場合、BCL2 は ERK やストレス活性化キナーゼなどの他のタンパク質キナーゼによってリン酸化されると考えられる。タンパク質ホスファターゼ 2A (PP2A) によって脱リン酸化される。PTM: アポトーシス中にカスパーゼによってタンパク質分解的に切断される。BH4 モチーフを欠く切断タンパク質は、プロアポトーシス活性を有し、シトクロム c を細胞質に放出し、さらなるカスパーゼ活性を促進する。類似性: Bcl-2 ファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体、および BAX、BAD、BAK、Bcl-X (L) とヘテロ二量体を形成する。BAX とのヘテロ二量体形成には BH1 および BH2 モチーフの完全な状態が必要であり、抗アポトーシス活性に必須である (相同性による)。また、APAF1、RAF-1、TP53BP2、BBC3、BCL2L1、MRPL41、BNIPL とも相互作用する。FKBP8 への結合は BCL2 をミトコンドリアへ誘導し、BCL2 の標的への結合を阻害すると考えられる。組織特異性: 様々な組織で発現する。

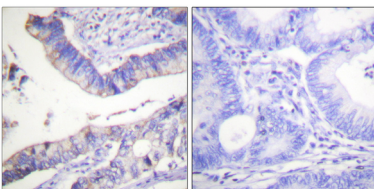
研究分野

アポトーシス阻害、ミトコンドリアアポトーシス、アポトーシスの概要、接着斑、神経栄養因子、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、がんの経路、大腸がん、前立腺がん、小細胞肺がん

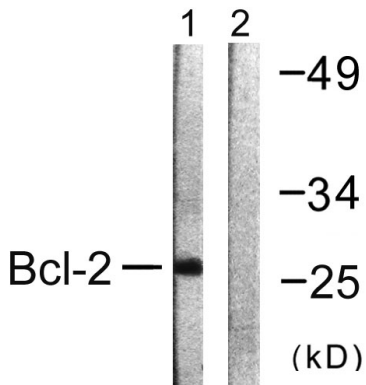
画像データ



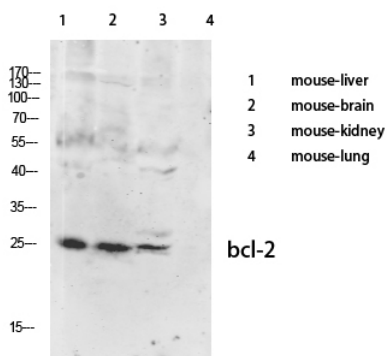
BCL-2 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



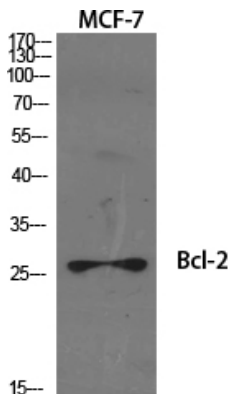
BCL-2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



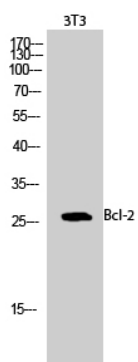
K562 細胞ライセートの BCL-2 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1:1000 希釈の Bcl-2 ウサギポリクローナル抗体を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析 (4°C、一晚)。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)。



1: 1000 に希釈した Bcl-2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 1000 に希釈した Bcl-2 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析